

平成三十年（二〇一八）三月二十六日發行
『大倉山論集』第六十四輯 抜刷
（公益財団法人 大倉精神文化研究所）

故小森嘉一氏旧蔵資料目録

林

宏

美

故小森嘉一氏旧蔵資料目録

林 宏 美

【解題】

はじめに

大倉精神文化研究所では、研究所の設立準備を開始した大正末から現在に至るまでの資料を沿革史資料として整理・登録している。その数は数万点に及ぶが、研究所には今なお未整理の資料や、地域の方・かつて研究所に関わっていた方やそのご子孫の方からの寄贈等によって新たに受け入れる資料もあり、沿革史資料の登録作業は現在も継続中である。

去る平成二十四年（二〇一二年）、研究所の旧所員であった小森嘉一氏のご遺族から小森氏の旧蔵資料三百三十五件をご寄贈頂いた。

研究所ではこの小森氏の旧蔵資料についても沿革史資料として登録に向けて整理を行ってきたが、その資料は研究所の歴史を知るうえで貴重なものが多い。また研究所との関係の有無に関わらず、資料の種類、内容、年代は多岐にわたっており、興味深いものが多い。そこで本稿に目録を掲載し、合わせてその概要を紹介したい。

一 小森嘉一氏について

資料について述べる前に、小森嘉一氏の経歴について簡単に触れておくことにする。

小森氏は明治四十年（一九〇七年）九月六日生まれで、昭和六年（一九三一年）三月、國學院大學国史学科を卒業後、研究科へ進学する。そして同科卒業の翌月、昭和八年（一九三三年）四月より大倉精神文化研究所最初の事業といえる『神典』の編纂に校正係として関与することとなる。⁽¹⁾これは小森氏が大学時代に師事した植木直一郎が『神典』編纂の中心的役割を担っていたことに拠るものと推測されるが、その経緯については明確でない。⁽²⁾その後、昭和十年（一九三五年）十月から正式に研究所所員となった。⁽³⁾

昭和十九年（一九四四年）からは研究所敷地内に設けられていた所員住宅に居住したが、昭和三十五年（一九六〇年）に所員住宅建設地の土地売却に伴って大倉山を退去し、研究所も退所する。但し、以後も研究所との関わりが失われた訳ではなく、研究所主催事業への参加や平成初年から始まった『大倉邦彦伝』の編纂にも関わる。なお、研究所に在職中の昭和二十八年（一九五三年）からは、学校法人横浜学院の設置する横浜女子高等学校（現、横浜女学院高等学校）に奉職し、昭和六十三年（一九八八年）まで教鞭を執っている。また、資料中には横浜市港北区太尾町十二（現、大倉山一丁目）にあった大倉山女子高等学校（のち東横学園大倉山高等学校、平成二十年〔二〇〇八年〕閉校）の卒業記念アルバムがあり、同校にも勤務していたものと見られる。

小森氏は、昭和七年（一九三二年）に創設された大倉精神文化研究所に草創期から六十年以上にわたって関与された。当研究所では平成八年（一九九六年）から平成十四年（二〇〇二年）までの間に、小森氏から七回の聞き取り調査を行っており、その記録は研究所の歴史のみならず大倉山地域の歴史を知るうえでも貴重な証言となっている。⁴

なお、この聞き取り調査実施当時にも小森氏ご本人から六十二点の資料を寄贈頂いており、⁵それらは既に当研究所の沿革史資料として登録・公開されている。

二 資料の構成と内容について

寄贈資料は、研究所関係資料と、研究所とは直接関係のない小森氏個人の収集資料との二種類に大きく分類される。前述のとおり、双方ともその種類、内容、年代は多岐にわたっている。以下、その特徴と特筆すべき資料について若干記しておきたい。

（一）研究所関係資料

研究所関係資料は、書籍類と文書類とに分類される。書籍については大倉邦彦の著作や研究所の刊行物である。その中には、小森氏の手によると見られる付箋や書き込み、校正があるものもある。

文書については、太平洋戦争終戦前後の資料や『大倉邦彦伝』編纂に関わる資料の占める割合が高い。編纂関係資料には現在の沿革史資料の複写資料⁶も多いが、伝記の構成案（沿革史資料No.13182 以下資料番号のみ表記する）や依頼原稿に添付されていたと見られる送付状（No.13158）などもあり、小森氏が伝記編纂において中心的な役割を担っていたことが窺える。しかし特に注目したいのはやはり終戦前後の資料である。

その中でも第一に挙げられるのは、海軍気象部関係の資料である。海軍気象部は太平洋戦争末期の昭和十九年（一九四四年）から終戦まで大倉精神文化研究所本館（現、横浜市大倉山記念館）の建物を借用して業務を行っていた。^⑦

研究所には海軍気象部との間で交わした文書類、気象部旧蔵と思われる物品類が残されているが、小森氏の手元にもその一部が保管されていた。小森氏保管の気象部関係資料は、終戦後に水路部へ移管することとなった気象部物品の保管依頼文書（No.13065）、備品目録（No.13066）、研究所に運びこんでいた洋書の受領証（No.13067）などであった。

また研究所には、戦後の物資が不足していた昭和二十年代頃の事務書類に海軍気象部から払い下げを受けたと見られる観測用紙の裏紙を使用したものが多数存在するが、小森氏の旧蔵資料中にも、このような裏紙を使用した資料が計二十七点存在する。また、その中には、これまで未確認の観測用紙を使用したものが少なくなかった。裏紙使用の資料の番号は目録末尾に掲載したので、そちらをご覧頂きたい。

続いて第二に挙げておきたいのが、終戦直後の研究所の講座関係資料である。

研究所は、昭和二十年（一九四五年）十一月二十四日に大倉邦彦が理事長兼所長の職を辞し、坪上貞二理事長・上田辰之助所長の二人体勢となり、戦後の新しい世界情勢や国際秩序に対応するため、その活動方針を大きく転換することとなった。研究所では日本の再建に資するという目的の下に、新しい講座を多数開催している。その一つに研究所の若い所員らで構成された研究所青年部が中心になって企画・開講した「民主主義講座」がある。小森氏も青年部の一員としてこの講座の講師を務めている。寄贈資料にはこの講座の配布資料（No.13073・13119）や聴講券（No.13083・13152）などの関係資料も含まれているが、その中には沿革史資料として複製のみが登録されている資料や、原本も複製も全く所蔵していないものがあった。よってこれらの資料は終戦直後の研究所の活動を知るうえで貴重な資料といえよう。

第三には、研究所周辺地域に関する資料、特に研究所と近隣地区の青年会・青年団との関わりが窺える資料を挙げたい。

その一例として、太尾町青年同志会から配布された演芸大会の案内（No.13111）がある。本資料はB5判のガリ版刷りで、昭和二十一年（一九四六年）八月十日に配布されたものである。演芸大会は、同月十四日の午後五時から池内精工株式会社（現在の横浜市港北区大倉山五丁目七付近）前に設けられた演芸場を会場に開催されたようである。演芸大会は、近隣住人に夕涼みの一刻を楽しく過ごして欲しいとの思いから計画されたもので、本資料からは当時の地域の様子や戦後復興に向けた明るい雰囲気を見ることが出来る。

なお、青年会・青年団に関する資料としては、港北区の連合青年会結成に関する懇談会の記録と見られるメモ（No.13089）、研究所をそれらの会合の会場とするメモ（No.1323）、各地域の青年団・青年会代表者の氏名・住所等の情報を記したメモ（No.1321）等も見られた。地域の青年団・青年会の存在や当時の活動内容もさることながら、こうした活動に研究所も参加・協力していたと見られる点は注目に値する。

また地域との関わりという面では、研究所での講座開講に際し、町内会長宛の開催通知（No.1303）なども見られる。大々的な事業展開が可能な財政的余裕があり、かつ修養会や講演などの依頼が全国から寄せられていた戦前とは異なり、戦後の研究所は活動方針の転換のみならず、その事業規模の縮小も余儀なくされた。地域への協力、働きかけはこうした変化の一端を物語っているのかも知れない。

また前述の資料よりも時代が遡るが、この他に研究所関係で特筆すべき資料として「富嶽荘日誌」（No.13165）がある。富嶽荘は昭和五年（一九三〇年）に大倉邦彦の自宅があった目黒に設けられた寄宿舎であったが、昭和六年（一九三二年）に大倉山へ移転している。学生を中心とする寄宿生たちは共同生活を送りながら修養研鑽を積んでい

た。「富嶽莊日誌」はその名のとおりに富嶽莊の寄宿生たちが記した日誌である。

本日誌の記載時期は昭和五年六月十九日から昭和七年八月二十一日の約二年余りであるが、これは研究所の建設中から開所直後の時期にあたる。また寄宿生たちは、研究所開所準備の担い手でもあったことから、彼ら自身の研究所に対する思いや、附属図書館に収蔵する図書の整理、かつて前庭にあった「地理曼荼羅」（日本地図を象った庭園）の造成などの開所に向けた細かな作業に関する記述も見られる。

研究所にはこの他にもさまざまな日誌類が残っているが、その記述内容は事実の羅列が中心であるのに対し、この「富嶽莊日誌」は非常に記述が詳細であり、当時の状況をより具体的に知ることができる点で貴重な資料である。また、執筆担当者の個性や心情が記載内容や文体によく表出しており、当時の青年たちの生活や思想について書かれた一つの読み物としても非常に興味深いものとなっている。

（二）小森氏個人の収集資料

小森氏個人の収集資料もその種類、時期等多岐にわたる。その中でも点数の多いものとしては、国内外の観光案内・地図・絵ハガキ、太平洋戦争の終戦前後に発行された幼児雑誌や絵本類、小森氏の母校國學院大學関係の資料が挙げられる。

国内外の観光案内・地図・絵ハガキは、昭和三十年代から四十年代のものが中心であるが、一部戦前発行のものを含んでいる。国内の地図類は東京・横浜の詳細図、国外についてはヨーロッパのものが大半である。また国外の観光案内は、航空会社が旅行者向けに編集・配布していた簡易的なパンフレット類が主で、地図類は現地調達と見られるものである。

國學院大學関係の資料としては、昭和十三年（一九三八年）から昭和十九年までに発行された院友会の『会報』計三十五冊（No.13272～13306 欠号あり）の他、卒業アルバム（No.13325）、学生証（No.13192）、運動会の役員・種目等の案内（No.13261）などがあり、卒業生でしか所蔵しえない資料である。

その他、教員時代のアルバムには、勤務校の遠足等で生徒たちと共に大倉山を来訪した際に、研究所や大倉山公園梅林などで撮影された写真が散見される。

また、太平洋戦争中にアメリカ軍が投下した「伝単」（No.13260）もあった。伝単は戦争の際に相手国の兵士や市民の戦意を喪失させるために配布されたビラで、紙の爆弾とも称された。小森氏所蔵の伝単はB6判両面ガリ版刷りで、表面には昭和二十年七月二十六日のポツダム宣言発表を受けて日本政府が連合国側に通達した内容、裏面にはその通達を受けての米国情務長官から日本政府へのメッセーじが書かれている。この伝単は記載内容から昭和二十年八月十一日から十五日までの間に投下されたものと推測され、戦争の一端を物語る貴重な資料といえよう。

おわりに

以上、小森嘉一氏の旧蔵資料の概要について記してきた。とはいえ本稿ではごく一部の資料を簡単に取り上げたにすぎない。沿革史資料も図書館の貴重コレクションの一部として原則公開しており、附属図書館で閲覧が可能である。今回の寄贈資料についても例外ではない。本稿では研究所関係資料について言及する部分が多くなったが、目録をご覧頂ければわかるとおり、それ以外の資料についても興味関心を惹くもの、利用価値の高いものを数多く含んでいる。これらの資料が多くの人に活用頂ければ小森氏も喜んで下さるものと考ええる。

最後に、本資料をご寄贈頂いた小森嘉一氏の孫の及川さやか氏とご遺族の皆様へ、この場を借りて改めて深謝申し

上げます。

注

- (1) 沿革史資料 No.181-231「履歴書」、並びに打越孝明「『神典』編纂の経緯について―旧所員・小森嘉一氏に聞く―」(『大倉山論集』第四十三輯、財団法人大倉精神文化研究所、平成十一年三月)。
- (2) 前掲注1「『神典』編纂の経緯について―旧所員・小森嘉一氏に聞く―」。
- (3) 小森氏自身は聞き取り調査の中で、昭和十一年(一九三六年)から正式に所員となったと述べているが、沿革史資料中の履歴書や名簿、研究員履歴抄ではその時期は昭和十年十月からとなっている。
- (4) 小森氏からの聞き取り調査の成果は、前掲注1の他、平井誠二『わがまち港北』(『わがまち港北』出版グループ、平成二十一年七月、港北区区民活動支援センターの情報紙『葉・遊・学』連載「シリーズわがまち港北」第一回〜第二〇回を単行本化)の第二回「大倉山の梅林」、第三回「大倉山駅の第一号定期券」、第三十三回「終戦秘話四 日誌が語る横浜大空襲から終戦」、第四十四回「終戦秘話五 大倉山と海軍気象部」、第五十九回「英雄源頼朝の伝説」の引用等に見られる。
- (5) 寄贈資料六十二点は、小森氏より借用のうえ複製を作成して登録を行い、後に返却したものを一部含んでいる。
- (6) 沿革史資料の本格的な整理作業は『大倉邦彦伝』刊行後から開始され、それ以前は書庫に未整理の状態で保存されていた。小森氏は伝記編纂にあたって個人でそれらの資料を調査され、必要なものを複写のうえ保管していたものと思われる。
- (7) 研究所で所蔵する海軍気象部の資料及びその研究成果については、酒井君代・平井誠二「海軍気象部による大倉精神文化研究所建物の借用」(『大倉山論集』第五十六輯、財団法人大倉精神文化研究所、平成二十二年三月)、拙稿「戦争末期の海軍による大倉精神文化研究所の利用について」(安藤広道編『慶應義塾大学日吉キャンパス一帯の戦争遺跡の研究』二〇一一年三月)、「〇一三年度 科学研究費補助金研究成果報告書」慶應義塾大学文学部民族考古学研究室、平成二十六年三月)を参照頂きたい。

【凡例】

一、本資料の目録は、沿革史資料の凡例に基づいて作成した。しかし、本誌へは、紙幅の関係から資料の備考情報など一部の項目を省略し、通番、資料名、編著者・差出人、出版者・受取人、年月日の五項目のみを掲載した。

一、資料は、原則として全て閲覧に供している。本誌掲載目録の元データや、資料の閲覧を希望される方は、当研究所までお問い合わせ頂きたい。

一、人名や年代に関する項目で、目録作成者の推定に拠ったものは、（ ）で括った。

一、各項目の表記は、以下の凡例に拠った。

①通番 沿革史資料の資料番号を示す。

②資料名 刊行物の書名は『』、論文や記事のタイトルは「」で括った。タイトルのない資料については（ ）で内容項目をとった。備考情報についても（ ）で補った。

③編著者・差出人 著作物については編著者名を、ハガキや書簡等については差出人名を記載した。

④出版者・受取人 著作物については出版者（社）名を、ハガキや書簡等については受取人名を記載した。

⑤年月日 年号と西暦、および月日を以下のように略記した。

・大正↓T 昭和↓S 平成↓H

（例）大正14年（1925年）7月30日～昭和2年（1927年）2月11日

→T14（1925）7.30～S2（1927）2.11

故小森嘉一氏旧蔵資料目録

通番	資 料 名	編著者・差出人	出版者・受取人	年月日
13001	『感想』 其一～三	大倉邦彦	大倉邦彦	T14 (1925) 7.30～ S2 (1927) 2.11
13002	『感想』 其一 (表紙のみ)	(大倉邦彦)	(大倉邦彦)	
13003	『感想』 其三	大倉邦彦	大倉邦彦	S2 (1927) 2.11
13004	『感想』 其七 (表紙のみ)	大倉邦彦	大倉邦彦	
13005	『THOUGHTS』 (感想)	KUNIHICO OKURA	Japan Advertiser Press	T14 (1925) 7.1
13006	『MY THOUGHTS』 in two parts (『感想』)	KUNIHICO OKURA / IWAO MATSUBARA・E. T. IGLEHART [訳]	The Westminster Press	T15 (1926)
13007	『MY THOUGHTS』 in two parts (『感想』)	KUNIHICO OKURA / IWAO MATSUBARA・E. T. IGLEHART [訳]	The Westminster Press	T15 (1926)
13008	『MY THOUGHTS』 Vol. II (『感想』)	KUNIHICO OKURA / IWAO MATSUBARA・E. T. IGLEHART [訳]	Japan Advertiser Press	S2 (1927) 2.11
13009	『感想 自其臺至其拾』 (『感想』 10周年記念躬行会創立趣意書有)	大倉邦彦	大倉邦彦先生感想発行係	S9 (1934) 6.1
13010	『感想 自其臺至其拾』 (『神典』ほか広告、「月刊修養雜誌」[躬行]の趣旨 有)	大倉邦彦	大倉邦彦先生感想発行係	S12 (1937) 3.1
13011	『感想』 (第2刷)	大倉邦彦	大倉山坐禅会	S57 (1982)
13012	『隨想 飛び石』 (再版)	大倉邦彦	青年書房	S15 (1940) 8.20
13013	『大倉邦彦選集』 (精神文化全集第8巻)	大倉邦彦	潮文閣	S17 (1942) 4.15
13014	『勤勞世界觀』	大倉邦彦	明世堂書店	S19 (1944) 10.5
13015	『獅子吼 年頭所感』 (『躬行』 昭和11年1月号の1・2 頁)	大倉邦彦	躬行会	S11 (1936) 1.1
13016	『意気を養ふ』 (『躬行』 昭和11年3月号の21・22頁)		躬行会	S11 (1936) 3.1

通番	資 料 名	編著者・差出人	出版者・受取人	年月日
13017	〔連続講座 神社まうで 二〕『躬行』昭和11年4月号の11・12頁		躬行会	S11 (1936) 4.1
13018	『躬行』 皇紀2597年1月号～12月号合本	大倉邦彦 [監修] / 山田勝二 [編輯兼発行人]	躬行会	S12 (1937)
13019	『躬行』 皇紀2599年1月号～12月号合本	大倉邦彦 [監修] / 山田勝二 [編輯兼発行人]	躬行会	S14 (1939)
13020	『躬行』 皇紀2601年1月号～12月号合本	大倉邦彦 [監修] / 山田勝二 [編輯兼発行人]	躬行会	S16 (1941)
13021	『躬行』 皇紀2601年12月号	大倉邦彦 [監修] / 山田勝二 [編輯兼発行人]	躬行会	S16 (1941) 12.1
13022	『躬行』 皇紀2603年3月号	大倉邦彦 [監修] / 山田勝二 [編輯兼発行人]	躬行会	S18 (1943) 3.1
13023	『躬行』 皇紀2603年4月号	大倉邦彦 [監修] / 山田勝二 [編輯兼発行人]	躬行会	S18 (1943) 4.1
13024	『躬行』 皇紀2604年9月号	大倉邦彦 [監修] / 山田勝二 [編輯兼発行人]	躬行会	S19 (1944) 9.1
13025	『躬行』 皇紀2604年12月号	大倉邦彦 [監修] / 山田勝二 [編輯兼発行人]	躬行会	S19 (1944) 12.1
13026	『心の使』 第1号	富士見会	富士見会 (大倉洋紙店内)	S4 (1929) 11.20
13027	『心の使』 第2号	富士見会	富士見会 (大倉洋紙店内)	S5 (1930) 1.20
13028	『私の使命事業』 皇紀2592年度版	大倉邦彦	大倉邦彦	S7 (1932) 1.5
13029	『私の使命事業』 皇紀2593年度版	大倉邦彦	大倉邦彦	S8 (1933) 7.5
13030	『私の使命事業』 皇紀2594年度版	大倉邦彦	大倉邦彦	S9 (1934) 9.5
13031	『私の使命事業』 皇紀2594年度版	大倉邦彦	大倉邦彦	S9 (1934) 9.5
13032	『私の使命事業』 皇紀2596年度版	大倉精神文化研究所	大倉精神文化研究所	S11 (1936) 7.8
13033	『私の使命事業』 皇紀2598年度版	大倉精神文化研究所	大倉精神文化研究所	S13 (1938) 4.5
13034	『私の使命事業』 皇紀2599年度版 (再版)	大倉精神文化研究所	大倉精神文化研究所	S14 (1939) 5.20
13035	『私の使命事業』 皇紀2601年5月増補	財団法人大倉精神文化研究所	財団法人大倉精神文化研究所	S16 (1941) 6.25

通番	資 料 名	編著者・差出人	出版者・受取人	年月日
13036	『事業報告』 皇紀2597年12月	財団法人大倉精神文化研究所	財団法人大倉精神文化研究所	S12 (1937) 12.
13037	『事業報告』 昭和13年度 (帳はずれ)	財団法人大倉精神文化研究所	財団法人大倉精神文化研究所	S13 (1938)
13038	『事業報告』 昭和17年度	財団法人大倉精神文化研究所	財団法人大倉精神文化研究所	S18 (1943) 5.15
13039	『事業報告』 昭和17年度	財団法人大倉精神文化研究所	財団法人大倉精神文化研究所	S18 (1943) 5.15
13040	『事業報告』 昭和17年度	財団法人大倉精神文化研究所	財団法人大倉精神文化研究所	S18 (1943) 5.15
13041	『所内しるべ』	大倉精神文化研究所	大倉精神文化研究所	
13042	『大倉山修養会綱領』	(大倉精神文化研究所)		
13043	『第拾回大倉山中等学生修養会要項』 皇紀2595年度	大倉精神文化研究所	大倉精神文化研究所	(S10 [1935])
13044	『商売往来』	大倉邦彦	大倉邦彦	S3 (1928) 4.30
13045	『大倉洋紙産業報国会規約』	株式会社大倉洋紙店		(S14 [1939] 9.15)
13046	『農村工芸学院趣意及一斑』	農村工芸学院		(S2 [1927] 12.1)
13047	『学院趣意並一覽』	農村工芸学院		(S3 [1928] 7.1)
13048	『来る春を夢見つゝはかなくこの世を去った存道を偲ぶ』	原田三十夫		(S32 [1952] 4.1)
13049	領収書 (差5枚)	空侯・繩産商並木鶴治郎		S9 (1934) 2.16
13050	名刺「日曜夕刊京浜新報社理事 丸川長治郎」	丸川長治郎		
13051	名刺「東京動産火災保険株式会社横浜支部集金係 練木伊三郎」	練木伊三郎		
13052	『第3回分保険料領収証』	東京動産火災保険株式会社横浜支部	山本清カ	S9 (1934)
13053	『領収証書・原符・徴税令書』(県税営業税・市税附加税)	横浜市神奈川区役所	可知博一	S9 (1934) 2.27
13054	領収書 (東京日日新聞代)	野毛日之出屋本店	山本	S9 (1934) 2.28
13055	『領収証』(瓦斯使用料・屋内管及器具使用料)	横浜市副収入役 上川季吉	可知博一	S9 (1934) 2.28
13056	(ハガキ)	山本治子	可知博一	S9 (1934) 2.23
13057	『領収証』(定額電灯料)	東京電灯株式会社横浜支店鶴見出張所	山田	S9 (1934) 2.21
13058	『計算書』(上・玄米・上田もち)	八木下本店	可知	S9 (1934) 2.28

通番	資 料 名	編著者・差出人	出版者・受取人	年月日
13059	「領収証」(水道使用料)	横浜市副収入役 大柳昌次	可知博一	S9 (1934) 2.26
13060	(ハガキ)	山本清子	可知博一	S9 (1934) 2.23
13061	(ハガキ)	ㄅギ一	可知博一	S9 (1934) 2.23
13062	「領収証」(断線電球引換料1個)	東京電灯株式会社横浜支店鶴見出張所		
13063	『東京日日新聞』昭和9年3月2日夕刊(満州帝国成立・溥儀の皇帝即位)	大阪毎日新聞社東京支店	東京日日新聞発行所	S9 (1934) 3.2
13064	(封筒)	甲州塩山向嶽神廟(中川) 宋瀬	可知博一	S9 (1934) 2.23
13065	「物品保管ノ件」(「海軍」野紙、別紙目録有)	宝来邦太郎	研究所長	S20 (1945) 8.19
13066	「物品目録(備品ノ部)(消耗品ノ部)」(「海軍」野紙)			
13067	「領収書」(Bowley「Elements of statistics」の受領)	海軍氣象部 平尾邦雄		S20 (1945) 9.5
13068	「神奈川県主催教育懇談会記録」	山田勝二		S21 (1946) 5.25
13069	(神奈川県下専門学校名簿)			(S20 [1945] 11. ~ S22 [1947] 頃カ)
13070	(県下教育諸問題に関する懇談への参加依頼状)	財団法人大倉山文化科学研究 所 理事長坪上貞二・所長上 田辰之助		S21 (1946) 4.
13071	(出席簿、神奈川県内の高等女学校の学校名を記載)			(S20 [1945] ~ S22 [1947] 頃カ)
13072	(第4回民主主義文化講座開講案内通知)	大倉山文化科学研究所青年部		S21 (1946) 9.10
13073	(民主主義講座プリントカ)	(坂本宏カ)		
13074	(終戦直後の研究所にて開講の講座のメモカ)			
13075	(民主主義の原則、個人生活の原則、婦人問題について記載、終戦直後の研究所にて開講の講座のメモカ)			
13076	(終戦直後の研究所にて開講の講座のメモカ)			
13077	(終戦直後の研究所にて開講の講座のメモカ)			
13078	(第4回民主主義文化講座開講案内通知)	大倉山文化科学研究所青年部		S21 (1946) 9.10

通番	資 料 名	編著者・差出人	出版者・受取人	年月日
13079	(第5回、第6回民主主義講座の通知に関わるメモカ)			
13080	「請求書」(ボスター代)	石川正一	研究所	11.18
13081	「立替金」(メモ)			
13082	「研究所青年部事業計画」(鉛筆書きメモ)			S 21 (1946) 8.
13083	「民主主義文化講座聴講券」(2枚)	財団法人大倉山文化科学研究 所		(S 21 [1946] ~ S 22 [1947])
13084	(青年団及青年会住所録 [メモ])			
13085	(港北区・神奈川区・鶴見区の国民学校の名称と住所、 港北区内の青年団および青年会の名称、新聞社の名 称と住所を記したメモ)			
13086	(青年及教育の問題等を記したもの、講座メモカ)			
13087	(メモ)「西八潮町五三四 石井吉藏」			
13088	(講座メモカ)			6.4
13089	(連合青年会結成に関わる懇談会記録)			
13090	「詔書」(ガリ版)			S 21 (1946) 1.1
13091	(メモ)「郷土の人によくした」「富嶽荘に宿泊」「観 艦式」			
13092	「ボツダム宣言 (米英支三国宣言)」(ガリ版)	財団法人大倉精神文化研究所		
13093	(3月の研究会「今年度の研究方針について」の打合 せ案内状)		小森嘉一	S 36 (1961) カ
13094	(定例研究会案内)	大倉精神文化研究所	小森嘉一	
13095	(研究会案内)	研究部長 西義雄	小森先生	5.27
13096	(講座の通知等の経費に関するメモカ)			
13097	「領収証」(ボスター4枚 8/7-14/7掲出料)	東京急行電鉄 開発課 横浜支 所 横浜駅構内厚木線改札	大倉山文化研究	S 22 (1947) 7.7
13098	「領収証」(ボスター4枚 5/26-6/1-週間料金)	東京急行電鉄株式会社 事業 部開発課	大倉文化科学	S 22 (1947) 5.24

通番	資 料 名	編著者・差出人	出版者・受取人	年月日
13099	「領収証」(ボスター10枚7/29—8/4)	東京急行電鉄株式会社 事業部兼業課	大倉文化科学研究所	S 21 (1946) 7.27
13100	「領収証」(ボスター26枚9/18—9/25)	東京急行電鉄株式会社 事業部兼業課	大倉文化科学研究所	S 21 (1946) 9.17
13101	「財団法人大倉精神文化研究所附属 研修寮のしおり」	財団法人大倉精神文化研究所 附属研修寮		
13102	「第六十五回帝国議会 貴族院に於けるめばしい質問演説 (今の教育は見直さねばならぬ)」	山田勝二		S 9 (1934) 4.1
13103	(講演会「民主主義は青年に何を期待するか」開催通知)	財団法人大倉山文化科学研究 所々長 上田辰之助	町内会長	S 21 (1946) 2.18
13104	(第三回公開シンポジウム「日本人の精神生活」開催通知)	大倉精神文化研究所 所長 西義雄		S 51 (1976) 5.25
13105	(第一回公開シンポジウム「日本人の精神生活」開催案内)	大倉精神文化研究所 所長 西義雄		S 49 (1974) 11.6
13106	「会館増築寄付及年末助合募金会計報告」	大尾町 会会計		S 35 (1960)
13107	(会合の日付のメモカ)			
13108	「[三四年度文部省科学研究費等の公募要領] についての打ち合わせおよび忘年懇談会案内状」	大倉山文化科学研究所	小森先生	S 34 (1959) 12.3
13109	(国民学校令に関する資料、ガリ版)			
13110	「領収書」(電気料、水道料)	大倉精神文化研究所	小森	S 35 (1960) 7.27
13111	(演芸大会案内)	太尾町 青年同志会	第十三組	S 21 (1946) 8.10
13112	(放送会館東京中央放送局ニュース係、日本高岡波会社吉田晴、東京新聞社消息関係、日本出版協会の住所を記したメモ)			
13113	「欧語音訳資料」(沿革史資料6084～6087同名資料の書誌編カ)			
13114	「新旧暦対照表」			
13115	(出版計画に関するメモカ)			

通番	資 料 名	編著者・差出人	出版者・受取人	年月日
13116	〔大倉精神文化研究所事業計画〕			
13117	〔「北畠親房」原稿〕	小森嘉一		S22 (1947) カ
13118	〔「唯一神道行事次第」〕「神道宗門改」〔氏子改〕「末生士之伝」〔「唯一論」原稿〕	小森嘉一		
13119	〔英文プリント、講座用資料カ〕			
13120	〔「社会運動講座」〕〔趣旨・要項・申込書〕	財団法人大倉山文化科学研究 所		S22 (1947)
13121	〔港北区内及び神奈川区羽沢、昔田各地区青年会の代表者名のメモカ〕			
13122	〔「新嘗祭神嘉殿の儀予想諸時刻」〕	松本勝三		S18 (1943) 9.11
13123	〔表面：計算のメモ、裏面：7月7日に神風館で開催された青年懇談会のメモ〕			77
13124	〔貸金第四回返済期日通知〕	財団法人大倉精神文化研究所	小森嘉一	S40 (1965) 12.3
13125	〔「第一回民主主義文化講座テキスト 農村問題について」〕			S21 (1946) 4.26
13126	〔表面：書簡の書き損じ、裏面：講座内容の検討メモカ〕			
13127	〔「第14回 大日本精神史編修委員会記録」〕			S18 (1943) 1.7
13128	〔「第13回 大日本精神史編修委員会記録」〕			S17 (1942) 5.17
13129	〔「第12回 大日本精神史編修委員会記録」〕			S16 (1941) 10.16
13130	〔「第5回 大日本精神史委員会討議要旨」〕			S15 (1940) 5.30
13131	〔「明治維新の精神（凡て仮称）」（担当者・題目）〕			S16 (1941) 1.11
13132	〔「社会運動講座」〕〔趣旨・要項・申込書〕	財団法人大倉山文化科学研究 所		S22 (1947)
13133	〔講演会「民主主義は青年に何を期待するか」開催通知〕	財団法人大倉山文化科学研究 所々長 上田辰之助	町内会長	S21 (1946) 2.18
13134	〔奉仕謝礼に対する御礼及び来所通知〕	利根川 東洋	大倉山文化科学研究所	S21 (1946) 7.8

通番	資 料 名	編著者・差出人	出版者・受取人	年月日
13135	「通勤者登録名簿」(研究所青年部嘱託職員の通勤者登録名簿)	財団法人大倉山文化科学研究 所		
13136	「故原田三千夫葬儀」(次第)	日本キリスト教団行人坂教会		S52 (1977) 6.12
13137	「第二回大倉山シンポジウムご案内」及び「第一回(試行)大倉山シンポジウムの概要」	財団法人大倉精神文化研究所	小森嘉一	S49 (1974) 1.30
13138	(修養会時間割)			12.12.～12.13.
13139	「第一回民主主義文化講座テキスト 農村問題について」			S21 (1946) 4.26
13140	「OFFICIAL TEXT OF POTSDAM SURRENDER ULTIMATUM」			
13141	(電話の掛け方に関する英文テキスト)			
13142	「日本共産党の原則綱領(昭和21年2月11日発表)(読売新聞二掲)」			S21 (1946) 2.11
13143	「卜部家に於ける神典の伝来」(中間頁欠)	西田長男		
13144	(研究所関係者の名前及び日付の記載など、研究発表に関するメモカ)	財団法人大倉山文化科学研究 所 理事長 坪上貞二・所長 上 田辰之助		S21 (1946) 12.26
13145	(役員会開催通知)			
13146	(第1回民主主義文化講座資料一括)			
13147	「日本政記 巻之十六 正親町天皇(抄)(頼山陽全書三七四頁一三七六頁)」「吾妻鏡 卷廿八 寛亨三年九月」(続国史大系 第五巻 三十六・三十七頁)「陸奥語記」(大日本精神史関係、ガリ版)			S21 (1946) 5.5～6.2 S17 (1942) 1.23
13148	(大倉邦彦の欧州調査旅行に関するメモ)	(小森嘉一カ)		
13149	名刺「佐藤徳文」	大曾根町青年新生会 文芸部長 佐藤徳文		
13150	(ハガキ、富士見日曜学校・一如寮・富嶽荘に関する問い合わせへの回答)	小野文雄	小森嘉一	H2 (1990) 10.24

通番	資 料 名	編著者・差出人	出版者・受取人	年月日
13151	(大倉精神文化研究所神典索引(係属託状))	大倉精神文化研究所長 大倉邦彦	小森嘉一	S11 (1936) 1.10
13152	民主主義文化講座聴講券 (計20枚)	財団法人大倉山文化科学研究所		S21 (1946)
13153	(書簡)	北村正	小森嘉一	S□ 5.24
13154	(新年号への広告掲載申込依頼)	皇国時報編輯部年賀広告係		S15 (1940) 12.4
13155	「神奈川高等学校設立認可申請」書類コピー	財団法人大倉学園 理事長 大倉邦彦		S18 (1943) 2.
13156	「財団法人設立申請草案」コピー	大倉精神文化研究所所長 大倉邦彦		S11 (1936) 11.28
13157	「東洋大学々長 大倉邦彦氏 = わが精神文化界の至宝 =」(「現代名士五分開伝記」コピー)	海東秀夫		
13158	(「大倉邦彦伝」原稿送付状)	早川敏一		10.4
13159	「大倉紙、バルヲ商事100年史」コピー	大倉紙、バルヲ商事100年史編纂委員会	大倉紙、バルヲ商事株式会社	H1 (1989) 11.3
13160	「圖書」コピー	大倉邦彦		S14 (1939) 10.7
13161	「訪欧日記」コピー	原田三千夫		T15 (1926) 3.10
13162	「日記」コピー			S9 (1934) 6.26~12.31
13163	財団法人大倉精神文化研究所封筒			
13164	Fashion Center GINZA KOMATSU 紙袋			
13165	「富嶽荘日誌」			S5 (1930) 6.19~ S7 (1932) 8.21
13166	「日誌より」(研究所日誌抜粋事写)			T14 (1925) 5.~ S48 (1973) 3.15
13167	(第15回研究会「田口卯吉の経済思想」通知)			11.1
13168	(青年会での徴収金を入れた袋々)			5.5
13169	(メモ)「港北区鴨志田町二九八 小林孝喜」			

通番	資 料 名	編著者・差出人	出版者・受取人	年月日
13170	〔メモ〕○文化欄○ 学会余談「山下 野村邦康 イテセン集」〔綱島 大谷一枝 婦人編〕			
13171	ハサキ「第7回民主主義文化講座御通知」	(大倉山文化科学研究所)	松下三雄	S22 (1947) 3.30
13172	「事業報告」昭和18年度	財団法人大倉精神文化研究所		S18 (1943) 4.1~ S19 (1944) 3.31
13173	「事業報告」昭和19年度	財団法人大倉精神文化研究所		S19 (1944) 4.1~ S20 (1945) 3.31
13174	「躬行」コピー			
13175	「臣民道に於ける祭政一致について」コピー	大倉精神文化研究所長 大倉邦彦	皇国時報発行所	S11 (1936) 9.21
13176	「大日本精神史編修ノ大綱方針」			
13177	「大日本精神史編修部規定」			
13178	〔メモ〕「小森様 3月分電水量」	井上	小森	S34 (1959) 4.25
13179	〔メモ〕「小森様 9月分電水量」	井上	小森	S34 (1959) 10.27
13180	「大倉邦彦先生追悼会」の際の集合写真カ)			S46 (1971) 12.19
13181	「大倉邦彦伝」原稿送付状)	森田康之助	小森	
13182	(大倉邦彦・大倉美枝子書簡、大倉邦彦伝案など「大倉邦彦伝」関係資料)			
13183	「大倉邦彦伝」関係のメモカ)			
13184	「大倉邦彦伝要記」コピー			
13185	「大倉邦彦伝」関係のメモカ)			
13186	「事業費」コピー)			
13187	「NETHERLANDS オランダ」(観光案内)	日本航空		S41 (1966)
13188	「Denmark デンマーク」(観光案内)	日本航空		S42 (1967)
13189	「ITARY イタリー」(観光案内)	日本航空		S41 (1966)
13190	「Leningrad TOWNS VIEWS」(絵ハガキ15枚)			S37 (1962)
13191	「紀元二千六百年記念乗車券 東京市内↔山田・樺原神宮駅」		鉄道省	S15 (1940) 4.2

通番	資 料 名	編著者・差出人	出版者・受取人	年月日
13192	〔小森嘉一氏の学生証〕		國學院大學	S5年度 (1930年度)
13193	『関東の旅』第17版	KK教材研究所編集部	教材研究所	S35 (1960) 3.1
13194	『MAP OF PARIS MONUMENTS METORO PARIS HISTORIC GUIDE INFORMATION For TOURISTS』			
13195	『MITTELEUROPA CENTRAL EUROPE』(道路地図) [8]		KUMMERLY&FREY	
13196	『神奈川区 横浜市区分地図 最新調査 番地入』		日本地学株式会社	S35 (1960)
13197	『Summer Programme of SIGHTSEEING TOURS AND COMPLETE TRAVEL SERVICES』(観光案内)		EVANS TRANSPORT ENTERPRISES	S42 (1967) 3.26~10.31
13198	『LONDON a map for tourists』		The British Travel Association	
13199	『De Rijn Panorama en grids』(観光案内)			
13200	『ITALIA Carta Automobilistica』(道路地図)		STUDIO F.M.B.	S41 (1966)
13201	『LA SUISSE Die Schweiz・La Svizzera Carte Automobile・Automobilkarte Carta Automobilistica』(道路案内)		HALLWAG BERNE	S42 (1967)
13202	『WINDSOR CASTLE』(観光案内)		PTTKIN PICTORIALS LTD	S41 (1966)
13203	『永万御即位記 山槐記 師元記』(写本)	(中山忠親・中原師元)		(永万) 1 [1651]
13204	『駒島温泉 新日本少年少女遺蹟』	川端康成	湘南書房	S20 (1945) 12.20
13205	『日刊スポーツ プロ野球 78』		日刊スポーツ新聞社	S53 (1978)
13206	『みなみの海』	文：丸山薫・画：赤松俊子	二葉書房	S18 (1943) 11.20
13207	『スズメノヤウツク』(2冊)	武井武雄	株式会社児童図書出版社	S20 (1945) 11.10
13208	『ウグヒスモノガタリ』	文：南江治郎・画：松井行正	二葉書房	S21 (1946) 4.1
13209	〔切符 中山⇔薨名〕		中山駅	S38 (1963) 1.4
13210	〔切符 西船橋⇔東神奈川・横浜〕		西船橋駅	S38 (1963) 10.13
13211	『ドイツ SAS CITY PORTRAIT』(観光案内)		スカンジナビア航空	

通番	資 料 名	編著者・差出人	出版者・受取人	年月日
13212	ナカヨシエホン『童話 さくら貝』	徳永壽美子	株式会社東亜春秋社	S 20 (1945) 12.15
13213	ナカヨシエホン『タノシイハタケ』	文：石上十地・画：黒崎義介	二葉書房	S 20 (1945) 12.1
13214	ナカヨシエホン『ハルカララユヘ』	文：水谷まさる・画：木俣たけし	二葉書房	S 21 (1946) 1.1
13215	主婦之友絵本『ボチ①』	画：黒崎義介・編輯：本郷保雄	主婦之友社	S 21 (1946) 1.25
13216	『空地蔵蔵』	文：關敬吾・画：福田豊四郎	日本美術出版株式会社	S 21 (1946) 1.10
13217	『ドウゾツノオカアサン』	文：水谷まさる・画：吉澤廉三郎	株式会社児童図書出版社	S 20 (1945) 7.10
13218	『カキケ ケコケ ヲケ』	文：サトウ・ハチロー・絵：澤井一三郎	株式会社大日本雄弁会講談社	S 21 (1946) 3.1
13219	『アサダアサダ』	文：富原義徳・画：林義雄	啓明出版社	S 19 (1944) 10.15
13220	『ノリモノナシキ』第7版	編輯：武井武雄・作詞：奥田準一・装幀：木俣武彦	鈴木仁成堂	S 17 (1942) 12.20
13221	『新生活エホン Shin Seikatsu Eihon』	編：角野門人・画：霜野一二彦	株式会社文化書院	S 21 (1946) 2.25
13222	『幼年絵雑誌フタバ FUTABA』創刊号（第一巻第一号）		二葉書店	S 21 (1946) 4.1
13223	『THE GOLDEN PICTURE DICTIONARY』	WORDS：Lucille Ogle and Tina Thoburn・PICTURES：Hilary Knight	Golden Press	S 51 (1976) 5.25
13224	『東京都区分詳細図 目黒区 改訂版』	植野録夫	日地出版株式会社	S 32 (1957) 4.
13225	『東京都区分詳細図 港区 最新版』	植野録夫	日地出版株式会社	S 34 (1959) 3.
13226	『東京都区分詳細図⑩ 大田区 最新版』	植野録夫	日地出版株式会社	S 34 (1959) 5.
13227	『東京都区分詳細図 千代田区 最新版』	植野録夫	日地出版株式会社	S 34 (1959) 6.
13228	『東京都区分詳細図 新宿区 最新版』	植野録夫	日地出版株式会社	S 34 (1959) 8.
13229	『東京都区分詳細図 中央区 最新版』	植野録夫	日地出版株式会社	S 34 (1959) 2.
13230	『東京都区分詳細図 杉並区 改訂版』	植野録夫	日地出版株式会社	S 32 (1957) 6.

通番	資 料 名	編著者・差出人	出版者・受取人	年月日
13231	「東京都区分詳細図 品川区 改訂版」	植野録夫	日地出版株式会社	S 32 (1957) 2.
13232	「東京都区分詳細図 大田区 改訂版」	植野録夫	日地出版株式会社	S 32 (1957) 2.
13233	「模範大東京全図 昭和三十年年度版」	植野録夫	日本地図株式会社	S 30年度 (1955年度)
13234	「東京都区分詳細図 世田谷区 改訂版」(表紙のみ)	植野録夫	日地出版株式会社	
13235	「東京都区分詳細図 文京区 最新版」	植野録夫	日地出版株式会社	S 34 (1959) 2.
13236	「台東区 東京都区分詳細図⑥ 最新版」	植野録夫	日地出版株式会社	S 34 (1959) 7.
13237	「関東地方 体錬歩行路図 家族向・第二輯・丘陵篇」(再版)	出口林次郎	日本統制地図株式会社	S 18 (1943) 4.10
13238	「関東地方 体錬歩行路図 一般向・第二輯・史蹟篇」三版	出口林次郎	日本統制地図株式会社	S 18 (1943) 8.10
13239	「横浜市区分地図 十区町名番地入」	地図出版株式会社	地図出版株式会社	S 27 (1952) 3.1
13240	「郷土のあゆみ 神奈川県」	神奈川県史蹟調査委員 石野 英	国際教材株式会社	S 24 (1949) 1.25
13241	「Simplet BRAND DEHYDRATING IDAHO WHITE POTATES」	(J . R . S I M P L O T DEHYDRATING CO.)	(J . R . S I M P L O T DEHYDRATING CO.)	
13242	(メモ4校)			
13243	「学校の概況」	私立麻布十番商店街青年学校	私立麻布十番商店街青年学校	S 17 (1942) 9.30
13244	(小森氏が教員の会合に参加した際に書いたメモカ、6校)			
13245	「昭和十七年度青年教練受閲計画」	私立麻布十番商店街青年学校・私立能登園車製作所青年学校	私立麻布十番商店街青年学校・私立能登園車製作所青年学校	S 17 (1942) 10.19
13246	「吾妻鏡 卷廿八 寛喜三年九月」(純国史大系 第五卷 三十六・三十七頁)「陸奥話記」(大日本精神史関係、ガリ版)			S 17 (1942) 1.23
13247	「雑誌休刊と浄牧学園建設の報告」	精神同盟主幹・浄牧学園々主 藤井顯孝		(S 4 [1929] カ)
13248	(横浜生糸検査所所在地、連絡先等のメモ)			

通番	資 料 名	編著者・差出人	出版者・受取人	年月日
13249	「先生の再教育を 教育職員養成審答申 課題山積、大学院で」(『毎日新聞』夕刊切り抜き)	岡崎康次	毎日新聞社	H10 (1998) 10.29
13250	(主に人名を記載したメモ)			
13251	(メモ) 「1956 高2 鈴木 松永 大柳」			
13252	(史料翻刻筆写原稿カ)			
13253	(随想4編)	阪本富士子・産形長司・川島美智子・本田		
13254	「母」	本田末子		
13255	「五月」	大西邦子		
13256	「愛せよ資源活かせよ廃品」	瀬尾芳夫	国民精神総動員中央連盟 株式会社朝日新聞社	S12 (1937) 11.4 S16 (1941) 5.18
13257	「週刊朝日」五月十八日号		小学館	S19 (1944) 1.1
13258	「良い子の友」正月号			S5 (1930) 5.22
13259	(電報)			S20 (1945) 8.
13260	(伝單) 「日本の皆様」			T15 (1926) 10.31
13261	「國學院大學々友会第三回陸上大運動会」(『プログラム』)			S2 (1927) 11.3
13262	「明治學院創立五拾週年記念 陸上運動会プログラム」			S7 (1932) 10.16
13263	「昭和七年十月十六日高先生百十一年記念会順序」	温故学会		H8 (1996) 3.24
13264	「余録」(『毎日新聞』朝刊切り抜き)	毎日新聞社		S12 (1937)
13265	手帳 (表紙に付箋「12日誌 14?」)			S27~28 (1952~1953) カ
13266	手帳 (表紙に付箋「27大倉山修学 28.4学院新年度」)			S15 (1940)
13267	手帳 (表紙にシール「昭和15年」／表紙に付箋「15」)	(大倉洋紙店)		S10・11 (1935・1936) カ
13268	手帳 (表紙に付箋「10 11?」)			S17 (1942) カ
13269	手帳 (表紙に付箋「17? 百人一首」)			(S21~24 [1946~1949] カ)
13270	手帳			S18 (1943)
13271	「日記 2603」(表紙内ポケットに受領票等30枚の抜き込み有)			

通番	資 料 名	編著者・差出人	出版者・受取人	年月日
13272	『会報』昭和13年第1号	財団法人國學院大学院友会	財団法人國學院大学院友会	S13 (1938) 1.24
13273	『会報』昭和13年第2号	財団法人國學院大学院友会	財団法人國學院大学院友会	S13 (1938) 2.21
13274	『会報』昭和13年第3号	財団法人國學院大学院友会	財団法人國學院大学院友会	S13 (1938) 3.21
13275	『会報』昭和13年第4号	財団法人國學院大学院友会	財団法人國學院大学院友会	S13 (1938) 4.21
13276	『会報』昭和13年第5号	財団法人國學院大学院友会	財団法人國學院大学院友会	S13 (1938) 5.10
13277	『会報』昭和13年第6号—附録・新卒業生名簿一	財団法人國學院大学院友会	財団法人國學院大学院友会	S13 (1938) 6.10
13278	『会報』昭和13年第7・8号	財団法人國學院大学院友会	財団法人國學院大学院友会	S13 (1938) 7.23
13279	『会報』昭和13年第9号	財団法人國學院大学院友会	財団法人國學院大学院友会	S13 (1938) 9.22
13280	『会報』昭和13年第10号	財団法人國學院大学院友会	財団法人國學院大学院友会	S13 (1938) 10.28
13281	『会報』昭和13年第11・12号	財団法人國學院大学院友会	財団法人國學院大学院友会	S13 (1938) 12.20
13282	『会報』昭和15年・1月号	財団法人國學院大学院友会	財団法人國學院大学院友会	S15 (1940) 2.27
13283	『会報』昭和15年・第2号	財団法人國學院大学院友会	財団法人國學院大学院友会	S15 (1940) 4.27
13284	『会報』昭和15年・第3・4号	財団法人國學院大学院友会	財団法人國學院大学院友会	S15 (1940) 5.30
13285	『会報』昭和15年・第6号	財団法人國學院大学院友会	財団法人國學院大学院友会	S15 (1940) 8.27
13286	『会報』昭和15年・第7号	財団法人國學院大学院友会	財団法人國學院大学院友会	S15 (1940) 9.28
13287	『会報』昭和15年・第8号	財団法人國學院大学院友会	財団法人國學院大学院友会	S15 (1940) 10.25
13288	『会報』昭和15年・第9号	財団法人國學院大学院友会	財団法人國學院大学院友会	S15 (1940) 11.25
13289	『会報』昭和15年・第10号	財団法人國學院大学院友会	財団法人國學院大学院友会	S15 (1940) 12.25
13290	『会報』昭和16年・第1号	財団法人國學院大学院友会	財団法人國學院大学院友会	S16 (1941) 2.11
13291	『会報』昭和16年・第2号	財団法人國學院大学院友会	財団法人國學院大学院友会	S16 (1941) 4.30
13292	『会報』昭和16年・第3・4号	財団法人國學院大学院友会	財団法人國學院大学院友会	S16 (1941) 5.30
13293	『会報』昭和16年・第5号	財団法人國學院大学院友会	財団法人國學院大学院友会	S16 (1941) 6.30
13294	『会報』昭和16年・第7号	財団法人國學院大学院友会	財団法人國學院大学院友会	S16 (1941) 7.22
13295	『会報』昭和16年・第8号	財団法人國學院大学院友会	財団法人國學院大学院友会	S16 (1941) 8.30
13296	『会報』昭和16年・9号	財団法人國學院大学院友会	財団法人國學院大学院友会	S16 (1941) 9.30
13297	『会報』昭和16年・10号	財団法人國學院大学院友会	財団法人國學院大学院友会	S16 (1941) 10.30
13298	『会報』昭和17年・第1号	財団法人國學院大学院友会	財団法人國學院大学院友会	S17 (1942) 3.20

通番	資 料 名	編著者・差出人	出版者・受取人	年月日
13299	『会報』昭和17年・第2号	財団法人國學院大学院友会	財団法人國學院大学院友会	S17 (1942) 6.30
13300	『会報』昭和17年・第3号	財団法人國學院大学院友会	財団法人國學院大学院友会	S17 (1942) 8.30
13301	『会報』昭和17年・第4号	財団法人國學院大学院友会	財団法人國學院大学院友会	S17 (1942) 11.1
13302	『会報』昭和17年・第5号	財団法人國學院大学院友会	財団法人國學院大学院友会	S17 (1942) 12.25
13303	『会報』昭和18年・正月号	財団法人國學院大学院友会	財団法人國學院大学院友会	S18 (1943) 1.31
13304	『会報』昭和18年・3月号	財団法人國學院大学院友会	財団法人國學院大学院友会	S18 (1943) 3.13
13305	『会報』昭和18年・6月号	財団法人國學院大学院友会	財団法人國學院大学院友会	S18 (1943) 6.5
13306	『会報』昭和19年・正月号	財団法人國學院大学院友会	財団法人國學院大学院友会	S19 (1944) 1.20
13307	『横浜市地図 番地入道路明細』	地理学研究所	地理学研究所	
13308	(外国絵ハガキ一括、69枚)			
13309	『昭和26までのフィルム』(写真フィルム等一括)			～S26 (1951) カ
13310	『賭博史』	(宮武) 外骨	半狂堂	T12 (1923) 5.1
13311	『昭和34年度 出席簿』			S34年度 (1959年度)
13312	日記カ 『天理教日本橋大教会』	(可知博和カ)		S7 (1932) 1.1～2.17
13313	日記カ 『天理教団ヲ去ツテ穂田ニ帰ル前後』	(可知博和カ)		S7 (1932) 2.18～5.31
13314	日記カ 『飯野 自昭和7.1至々8.31』	(可知博和カ)		S7 (1932) 7.1～8.31
13315	ノート 『田中教授 商法』	可知博和・楠庵主人		S8 (1933) 4.15～5.27
13316	ノート 『獅子不敗之力』	(可知博和カ)		S7 (1932) 6.1～
13317	ノート (遑子・鎌倉の名所旧跡等を記す)			
13318	ノート 『日本古代史』			
13319	『入置申實地証文之事』	宮ヶ谷村實地主奥右衛門		文久1 (1861) 6.
13320	(稲吉由麗江氏の在職証明に関するメモ)			(S40以降)
13321	(封筒)	横浜高等勸業学院		
13322	ノート 『社会科学課題集』	小森嘉一		
13323	ノート 『西洋史 二』	小森嘉一		
13324	『ラヂオ トイツ語講座』		財団法人日本放送協会関東支部	S2 (1927) 7.4

通番	資 料 名	編著者・差出人	出版者・受取人	年月日
13325	(國學院大學昭和三年度国史学科卒業生アルノバム)			
13326	(アルノバム)「昭和二十七年三月 第二回 卒業記念」		タカノ写真館高野勇	(S 6 [1931] 3ヵ)
13327	(アルノバム)「23-29 大倉山関係」		大倉山女子高等学校	S 27 (1952) 3.
13328	(アルノバム、横浜学院関係の写真中心だが大倉山の写真有)			S 23 (1948) ～ S 29 (1954) S 29 (1954)
13329	(アルノバム)			S 30 (1955)
13330	(事業部総合研究の打合せのメモカ)			S 60年代カ
13331	(アルノバム、家族写真ほか)			S 12 (1937) 頃
13332	(アルノバム、家族写真ほか)			S 13 (1938) ～ S 21 (1946) 頃
13333	(アルノバム、家族写真ほか)			S 11 (1936) ～ S 31 (1956) 頃
13334	(アルノバム、青年期の小森氏ほか)			
13335	(生活用品・食品の名前と値段を記したメモ)			大正～昭和初期カ

注1、海軍気象部より払い下げを受けたと見られる観測用紙の裏紙を使用した資料27点について、以下にその資料番号を列記する。

13072～13089、13096、13112、13140、13142、13146、13152、13178、13179、13335

【附記】

本目録の作成・掲載にあたり、古畑脩亮氏に多大なるご協力を頂きました。ここに記して御礼申し上げます。